

令和 2 年度原子力防災訓練（避難中継所設置運営訓練） 結果概要

令和 2 年 11 月 15 日（日）に、高島市の高島 B&G 海洋センターにおいて、スクリーニング・除染方法の確認を行うための避難中継所設置運営訓練を実施した。（今年度は、新型コロナウイルス感染症流行下であることから、住民避難を伴う訓練の開催は見送った。）

1 目 的

- （1）県、関係市および防災関係機関の原子力災害対策に係る能力の向上
- （2）高島 B&G 海洋センター（新たな避難中継所候補地）の実用性の確認

2 実施日時

令和 2 年 11 月 15 日（日）13 時から 16 時まで

3 主 催

滋賀県

4 参加人数および参加・協力機関等

- （1）参加人数
8 機関 69 人（防災業務関係者のみ）
- （2）参加・協力機関
高島市、（公社）滋賀県放射線技師会、長浜赤十字病院、大津赤十字病院、滋賀医科大学医学部附属病院、（一社）滋賀県バス協会、関西電力送配電（株）

5 一時移転想定対象地区

旧広瀬小学校区（高島市安曇川町）（人口：1,028 人）

6 訓練スケジュール

13:00～13:10 オリエンテーション
13:10～14:50 避難中継所立ち上げ
14:50～15:30 スクリーニング・除染
15:30～16:00 振り返り

7 訓練項目

- （1）資機材の展開方法等の確認
各担当要員がスクリーニング・除染に必要な資機材（ゲート型モニタ・救護資機材・椅子等）の展開方法や展開場所を確認しながら、避難中継所会場の設営を行った。【写真①・②】
- （2）動線・ゾーニング等会場レイアウトの検証
あらかじめ想定した会場レイアウト（案）に基づき、会場の設営を行った上、人や車両の動線が適切に確保できるか、汚染エリア・非汚染エリアのゾーニングは適切に行えるかどうかの検証を行った。【写真③】
- （3）スクリーニング・除染方法の確認
会場設営後、住民役の職員に対し、模擬的にスクリーニング・除染を行い、各担当要員がスクリーニング・除染方法の確認を行った。【写真④・⑤・⑥・⑦】
- （4）新型コロナウイルス感染症流行下を想定した会場運営方法確認
内閣府が策定した「新型コロナウイルス感染拡大を踏まえた感染症の流行下での原子力災害時における防護措置の実施ガイドライン」に基づき、避難車両や避難中継所における感染症流行下での対応を行った。

①バス車内

- ・バス車内においては座席を空けて十分な間隔を確保し、さらに感染の疑いのある者はビニールシートで区画して着席させることでそれ以外の者との隔離を行った。

【写真⑧・⑨】

- ・乗務員と住民役の職員との距離についても可能な限り離し、乗務員席もビニールシートで区画した。【写真⑩】

②避難中継所会場内

- ・バスから会場に住民役の職員を誘導する際に、感染の疑いのある者から先に降ろし、誘導し、会場内に入るタイミングをずらした。【写真⑪・⑫】
- ・感染の疑いのある者はそれ以外の者を別の方法でスクリーニングを行った。
- ・スクリーニングを行うために待機する際の椅子の間隔を離した。【写真⑬】
- ・会場入口、出口、会場内にアルコール消毒液を設置した。【写真⑭】



写真①
避難中継所会場設置
(会場内の各資機材設置)



写真②
避難中継所会場設置
(車両スクリーニング資機材設置)



写真③
避難中継所会場内において
レイアウトの検証



写真④
車両スクリーニング



写真⑤
ゲート型モニタースクリーニング検査



写真⑥
詳細汚染検査



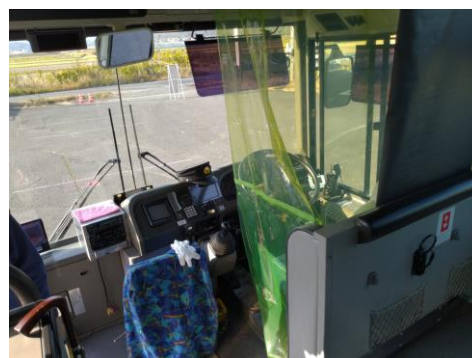
写真⑦
救護活動



写真⑧
バス車内



写真⑨
バス車内（ビニールシートによる乗客席の区画）



写真⑩
バス車内（ビニールシートによる運転席の区画）



写真⑪
バスから会場に向かう様子（発熱者）



写真⑫
バスから会場に向かう様子（発熱者以外）



写真⑬
スクリーニング待機場所



写真⑭
会場入口 消毒液設置

8 主な成果と課題

【成果】

- ・貸切バス車内の感染症対応として、バス運転者席と発熱・咳等のある住民の座席位置にビニールシートで囲い、座席を隔離できたことはよかった。
- ・簡易マニュアルの作成により効率よくゲートモニタの組み立てができた。
- ・避難中継所内での流れや事前準備から片付けまでの確認ができた。
- ・救護所において患者情報を一ヶ所で集約して管理できたため、救急搬送の手配等、スムーズに連携ができた。

【課題】

- ・今回の訓練では検査済みの方の待合は同じ会場内となっていたが、天候や気温などもあり、できれば屋内で空調があるところがよい。隣に屋内スペースがあるので、その活用方法も考えてもよいのではないかな。
- ・バスが複数台到着した場合のバスの溜まり場所なども必要であると思う。
- ・有事の際に避難者は不安でパニックになると考えられるので、拡声器等で素早く的確に不安を取り除くような説明ができるような人材と人員配置が必要になると思った。会場に複数拡声器は用意しておいたほうが良いと思う。
- ・砂地で開け放しの会場であったので荒天時の想定が必要。
- ・会場が砂地なので、ブルーシート等を敷いて、養生した方が良い。

【その他】

- ・原子力災害時は、救護所設営ではなく、まず測定をしてから救護にあたるのでそれを考慮した環境づくり、ゾーンの仕分け、人員の配置が非常に重要だと学んだ。

9 訓練を踏まえた今後の対応

(1) 「原子力災害に係る滋賀県広域避難計画」の修正

本訓練において、新たな避難中継所候補地である高島 B&G 海洋センターの実用性の確認を行うことができたことから、「原子力災害に係る滋賀県広域避難計画」に当該会場を避難中継所として記載する。

(2) 「避難中継所運営要領」の修正

本訓練において、出された課題を踏まえて、高島 B&G 海洋センターの会場レイアウト（案）を修正し、「避難中継所運営要領」に当該会場レイアウトを追記する。